

人吉 球磨 日本 遺産

人吉球磨地域の文化財が、「日本遺産」として文化庁に認定されました。

相良 700 年が生んだ保守と進取の文化
～ 日本でもっとも豊かな隠れ里 人吉球磨 ～



【ストーリーの概要】

人吉球磨の領主相良氏は、急峻な九州山地に囲まれた地の利を生かして外敵の侵入を拒み、日本史上稀な「相良 700 年」と称される長きにわたる統治を行った。その中で領主から民衆までが一体となったまちづくりの精神が形成され、社寺や仏像群、神楽等とともに信仰し、楽しみ、守る文化が育まれた。同時に進取の精神をもっていたたかに外来の文化を吸収し、独自の食文化や遊戯、交通網が整えられた。保守と進取、双方の精神から昇華された文化の証が集中して現存している地域は他になく、日本文化の縮図を今に見ることができる地域であり、司馬遼太郎はこの地を「日本でもっとも豊かな隠れ里」と記している。

人吉市・球磨郡の全域にある、計 41 の文化財が日本遺産として認定されました。この紙面では 41 のうち、11 の文化財を紹介します。



国宝
青井阿蘇
神社



多くの寺院や史跡、文化財を今も残す人吉。中でも青井阿蘇神社は、創建大同元年（806）、人吉球磨地方の総鎮守であり最大の神社で、1200年の時と歴史を越え、五棟社殿群（本殿・廊・幣殿・拝殿・桜門）が平成20年6月に国宝に指定されました。神社のシンボルである茅葺きの楼門をはじめ、華麗に飾られた彫刻などは、桃山時代風の豪壮な建築様式を今に伝えます。



球磨
焼酎



球磨焼酎は、国際的に通用する酒類の「地理的表示を保護する法律」により、1995年、日本で初めて「球磨」のほか二地域の焼酎が産地指定となったことで、世界ブランドとなりました。球磨焼酎は、球磨地方の豊富な清水と豊かな土壌で育まれた米を原料としています。人吉球磨地方には、28軒の蔵元があり、それぞれが競い合い約200種の銘柄を造っています。球磨焼酎の蒸留方法には、常圧と減圧の2種類があります。芳醇な濃（コク）があるという常圧蒸留酒と、軽快な酒質を造り出す減圧蒸留酒、いずれもご賞味ください。



人吉城跡



「織月城」「三日月城」とも呼ばれる人吉城は、人吉球磨地方を700年あまり統治した相良氏の居城です。本格的な築城は、戦国時代に始まり、慶長年間、第二十代長毎の時に、近世の人吉城が誕生しました。



球磨川



相良氏は、水量が豊富な球磨川を交通および米や木材などの物資の輸送に大いに利用した。明治時代に入り鉄道運輸に取って代わられるが、水運の伝統は、現在の「観光川下り」に受け継がれている。



人吉 温泉



五百年も前に相良家の殿様が、人吉温泉に入浴したと記録も残っている、歴史ある温泉。それは、街の中心を流れる球磨川沿いに点在し、地元の人のみならず観光客にも人気となっています。泉質は、弱アルカリ炭酸泉など。美人の湯でも有名。



相良 三十三観音 巡り



人吉球磨地方には、一番札所から三十三番札所（三十五か所）まで、全三十五の観音様があちらこちらに祀られています。その昔から春と秋のお彼岸には、三十三か所の観音霊場を巡って仏さまの功德をいただく三十三観音めぐりが行われています。またこの期間中、各札所には巡礼者へ地域の人たちによる心づくしのお茶や漬け物などがふるまわれます。



老神神社

領主相良氏の氏神として保護され、周辺住民から「老神さん」として親しまれ信仰を集める神社。



生善院観音

領主相良氏の氏神として保護され、周辺住民から「老神さん」として親しまれ信仰を集める神社。



ウンスンカルタ

江戸時代中期に幕府に禁制され廃れた中で、全国で唯一、人吉藩領のみ遊戯法が継承された。現在は人吉市の民間団体が継承する。



城泉寺阿弥陀堂

在地豪族久米氏が建立したといわれるが、その後も相良氏や民衆の厚い保護・信仰を受けて、堂舎と本尊、石塔群が中世の景観を今に伝える。



球磨拳

じゃんけんのルーツとも言われる拳遊び。宴会の余興としては、勝負に負けた方が焼酎を飲むのだが、焼酎飲みたさにわざと負ける者もいたとか。